

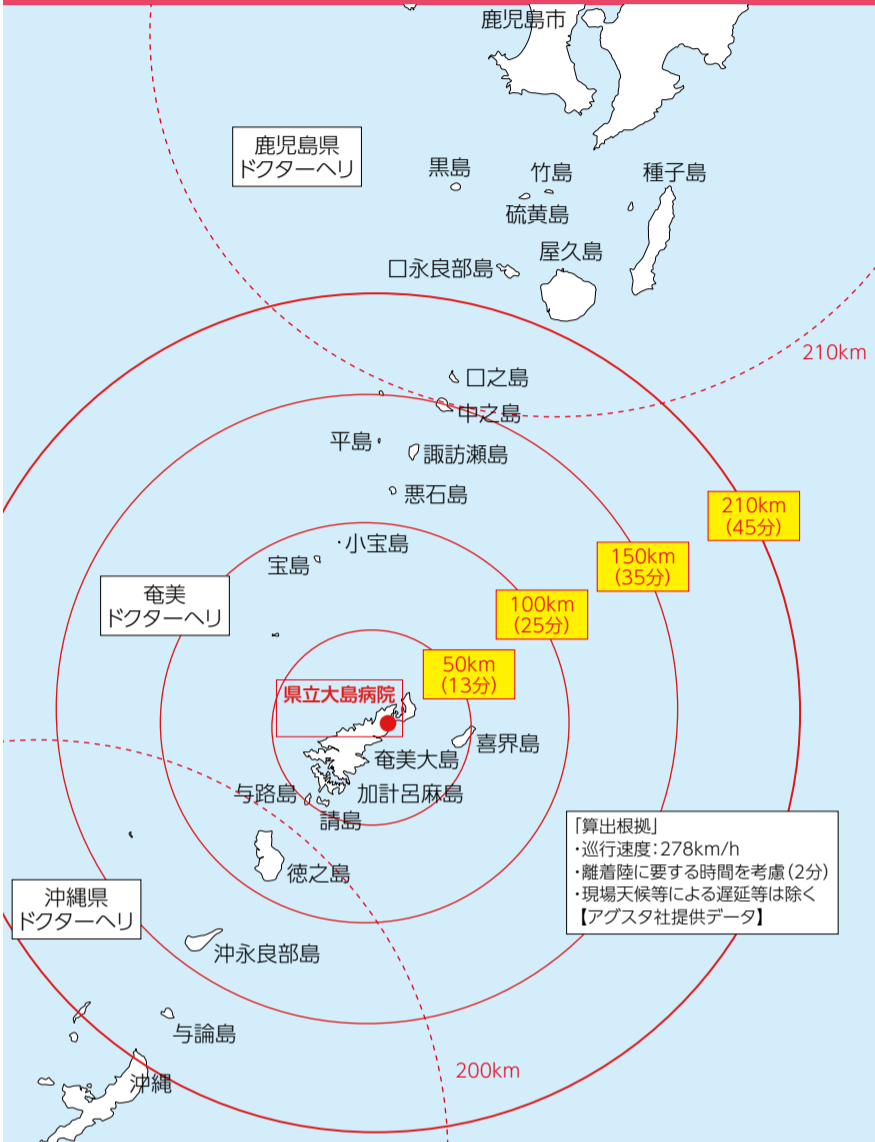
# 12月27日から「奄美ドクターヘリ」の運航を開始します



「ドクターヘリ」とは、救急医療に必要な機器や医薬品などを装備した救急医療専用のヘリコプターです。医師や看護師が搭乗し、離着陸場所(ランデブーポイント)から医療機関に搬送するまでの間、患者に救命医療を行うことができます。

多くの離島があり、広い地域を対象とした救急医療の確保が求められる本県では、平成23年12月に県本土・熊毛地域などを運航範囲とした県ドクターヘリの運航を開始しました。今回の奄美ドクターヘリの運航開始により、県内全域をカバーできるようになります。

## 運航範囲および県立大島病院からの所要時間

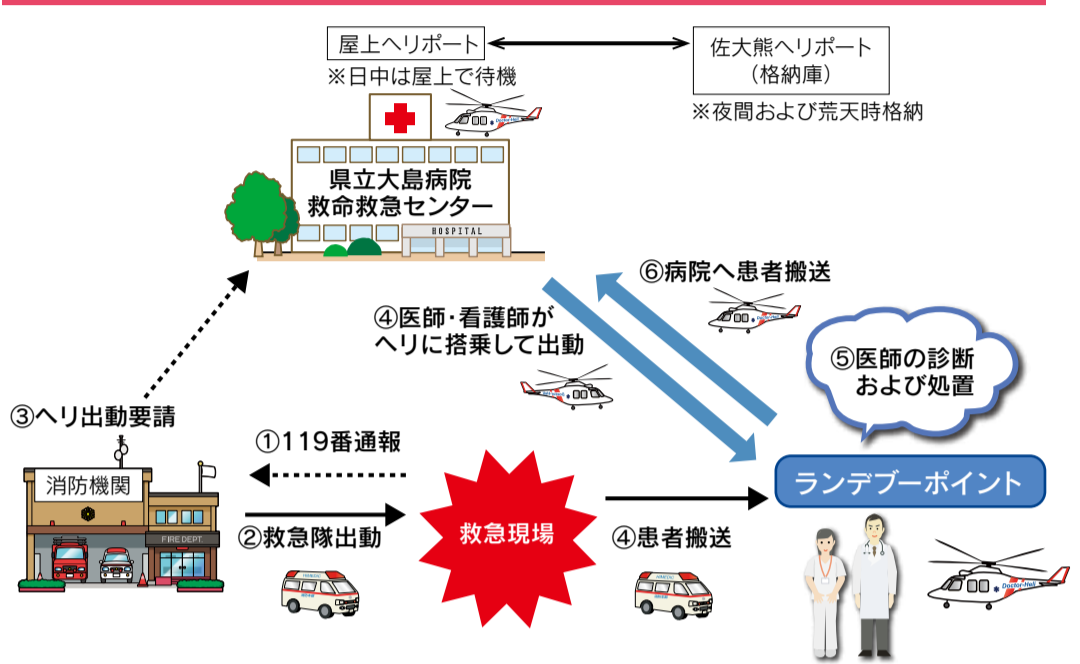


### 安全な運航のため県民の皆さまへお願い

- 離着陸の際は、ヘリコプターの風圧や騒音が発生します。危険ですので離着陸する場所から退避してください。
- 着陸後は、関係者以外近寄らないでください。

問い合わせ先 県立大島病院 ☎0997(52)3611

## 基本的な流れ



## 奄美ドクターヘリの概要

- 運航主体 県立大島病院
- 運航時間 午前8時30分から日没まで  
※悪天候で視界不良のときなど、出動できない場合があります。
- 離着陸場所 原則として事前に定めたランデブーポイント(公園や運動場、学校の校庭など)
- 出動要請方法 消防機関などが県立大島病院へ要請  
※県民の皆さまが直接要請することはできません。
- 運航範囲 奄美地域および十島村

## 北朝鮮による拉致問題の解決に向けて

1970年代から1980年代を中心に、多くの日本人が北朝鮮に拉致されました。日本政府は北朝鮮による拉致被害者として17人を認定していますが、ほかにも、拉致の可能性が疑われる行方不明者が多く存在します。2002(平成14)年9月、北朝鮮が日本人拉致を初めて認め、同年10月に、5人の拉致被害者が日本に帰国しましたが、そのほかの被害者については、北朝鮮当局から納得のいく説明はなく、今なお北朝鮮にとらわれたまま、帰国の実現を待っています。

### 本県に関係する拉致被害者の方々

今から38年前の1978(昭和53)年8月、市川修一さんと増元のみ子さんは日置市の吹上浜海岸で北朝鮮に拉致され、いまだ帰国を果たしていません。

また、民間団体である特定失踪者問題調査会が、北朝鮮による拉致の可能性を排除できないとしている「特定失踪者」や、警察が公表している「北朝鮮による拉致の可能性を排除できない行方不明者」の中にも、本県関係者がいます。



市川修一さん(当時23歳) 増元のみ子さん(当時24歳)

北朝鮮による拉致問題の一刻も早い解決には、それを願う県民の皆さま一人ひとりの声は何より強い力となり、被害者ご本人とご家族の大きな心の支えとなります。皆さまの温かいご理解とご支援をお願いします。

### ブルーリボン

「北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じている」という意思を表わしています。

### 12月10日～16日は北朝鮮人権侵害問題啓発週間です

北朝鮮人権侵害問題啓発週間を中心に、地域振興局・支庁やイオンモール鹿児島など県内15カ所でパネル展を開催します。※パネル展の詳細などについては、県ホームページをご覧ください。

鹿児島県 拉致問題 検索

問い合わせ先 県庁社会福祉課 ☎099(286)2828